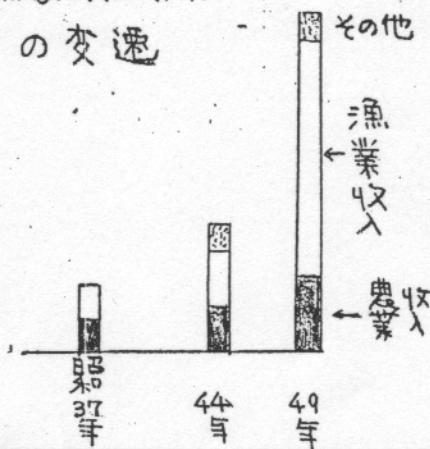


霞ヶ浦漁業の動向 (4)

霞ヶ浦には78種もの魚がいます。このことは漁業を行う上で大変、有利な条件でした。いくらかの土地で豊業を行い、他方で漁業を行うというみだりの兼業漁家にあつて、いくつかの漁法、いく種類かの魚は、兼業の内容を豊みにし漁業者の家計を支えて来たといえましよう。ウナギがこれほどモワカサギがあるとか、ワカサギがいなくてもエビがそれを助けてくれました。ほかのミナトちがって霞ヶ浦の幸によってずいぶんと思恩を受けて来たといえませう。昭和35年から10

漁家の収入源の変遷



年間の工業への就業者数は14%だけ増加してありますが、豊業・漁業は30%も減少しています。霞ヶ浦では、減ってはいますが、その減り方は、この半分の14%にとどまっています。兼業としている漁業によって強い風をもたげることができたわけですが、そのことは左の図にはつきりと現われています。豊業所得が12年で2.3倍(全国平均は10年で2.2倍)の伸びを示しているのに対し、

漁業6.57倍もの伸びを示しています。それだけ、漁業依存度が大きくなって来ているわけですが、霞ヶ浦水産事務所調査では、現在の漁業に満足していると答えた方が霞ヶ浦では60%、水浦では51%に達しています。「満足」の内容が題名の通り、漁業依存度が高まってる点を反映していること、みてよいものと思われます。霞ヶ浦では、ワカサギが減っています。それをエビが補ってくれています。水浦ではワカサギが、数年前豊漁だったこともあり、さすくなくとも現状は確保し、さらに前進したものです。しかし、最近では、オキアミの進来によってエビがおそれ、気味で、価格が安かったり、買ひ止めになったりしています。又、エビ、ハゼ

コイ等の淡水魚が、テレポート等に類を並べるようになって来ておられます。需要を伸ばすという点からは、好ましいことといえましようが、同時にエビとオキアミの関係に類する問題が、ほかの魚種にも及ばないかどうかという心配もなければなりません。そんなわけですから、環境条件、経済条件とも、一つの曲り角にさしかつており、何らかの対策が待た望まれる時代といえましよう。



イ \* \* \* \* \*  
放流用ワカサギが元気に  
あよいでいます。

今年も 試験場の池で孵化したワカサギが、スイスイと泳いでいます。3月下旬に生まれた仔魚は、鰓ふんを施肥した池のワムシを食べて、もう池の動物プランクトンを残らず、食べています。

クロステリウムができています

この針のような緑色のプランクトンは、今の鰐ヶ浦を緑色に染めている犯人です。大浦ではそれ程ではなく、珪藻のステラテラスが多くのための、褐色を帯びています。このクロステリウムは、昭和48年に、おぼろきり産をくらませておりました。が、昨年の10月頃風来坊のように、ひよこり産をのぞかせ、以後、それまでの先輩プランクトン諸氏をけおとし、わが世の春といつた顔つきです。このプランクトンが多くなるとCOD(化学的酸素要分量)が高くなるようです。48年の場合には、6月中旬以降になって、枯れはじめの7月に入ると



らん藻のアナバナにか

わっています。CODとは酸素を含む藻を水に加えて、どれだけの酸素を水中の物質が消費するかという検査です。6月中旬頃のクロステリウムが枯れる頃に、多量の酸素を使い一時、酸素不足になること予想されます。これは6月中旬から7月上旬の間で、今の水が透明になって来れば、その状態に入ったと見てよいでしょう。48年の例ですと、この時の酸素不足は、軽度で大きな被害はありませんでした。が、酸素不足の発生によって、底泥中のリンや窒素が水中に溶出して来ます。アナバナやアオコは、水中の窒素を中心に、リンと太陽の光の力をかりて、豊富に存在する炭素を利用して増えています。

こうした点を考えますと、勿論、今後の天候にもよりますが、アオコの発生する下地は準備されつつあるといえます。このクロステリウムは現在のところ外浪逆浦まで、大浦には、少ないので、鰐ヶ浦とはわけて考える必要があるようです。又、48年には、ワカサギが不漁でした。その原因は、よくわかっていませんが、今までの調査結果では、このクロステリウムが、ワカサギ仔魚の餌となる微小動物を作ってくれないので、仔魚の時代に餓死するのではないかと見られています。6月に入ると、ワカサギの試験魚もありません。この点はすぐにはわかりません。48年には、もうそろそろ、異常現象がでていました。今年の水質を予測する上で重要ですから、種々お知し下さい。

### 酸欠対策

昨年は、48年程ではなにして、プランクトンや水質から見るとアオコの異常発生年でした。長期予報をきかせながら、大量の被害を受けられた方々に、誠に申し訳ないことをしました。

さて、対策の一つとして、以前にも述べたところですが左図のようにシートで網をかき、その中を曝気すれば、シートで無給餌の場合には生き残ります。周囲をかきわり場合には、いくら酸素ポンプで曝気しても効果ありません。網数の少ないところ、浅いと、うでは可能です。

